

『ヨーロッパの窓 ～石畳の路地裏散歩～』

上野 美千代／写真・文 光村推古書院

(2015年)

ヨーロッパの街の路地裏には、素敵な窓がいっぱい。丹精込めて育てたお花やお気に入りのお皿を飾っている窓。外壁に描かれた絵の中の窓。伝統的な模様に囲まれた窓。彫刻で飾られた教会の窓。その一枚の絵の様な風景は、窓の持ち主の楽しみだけではなく外を通る人たちをも喜ばせます。日が落ちてくると窓の中の世界は暖かい光に包まれ一層際立ちます。今度旅に出たときには、ひとやすみしながらゆっくりと街を楽しんで下さいね。

『パンとスープとネコ日和』

群 ようこ／著 角川春樹事務所(2013年)

アキコは亡くなった母の店を継ぐことを決めました。長い間勤めていた出版社を退社して、今まで母がやっていた食堂をシンプルで自分の好みのお店に改装することにしました。従業員はアキコとアルバイトのしまちゃんの2人だけの小さなお店です。ある日、店を閉めた後に泥まみれの野良猫を見つけました。“たろ”と名付けられたその猫とアキコと商店街の何気ない毎日のおはなしです。



『お坊さんとお茶を 孤月寺茶寮はじめての客』

真堂 樹／著 集英社(2015年)

お人好して要領の悪い三久は、勤め先をリストラされ路頭に迷ってしまいます。貧乏な禅寺・孤月寺で行き倒れ、僧侶見習いとして居候することに。三久と呼ばれ、慣れない修行生活や檀家さんのトラブルに、いつも不器用ながら一生懸命に対応しています。

ねえねえ三久さん、そんなにアクセクしなくても座禅、茶礼、薬石など「静」の時間で解決するんだよ。人生何事においても「ひとやすみ」って大切ですよ。



『ほんまにオレはアホやろか』

水木 しげる／著 講談社(2016年)

『ゲゲゲの鬼太郎』の作者として有名な水木しげるさん。大好きな美術に熱中する一方で、マイペースすぎて怒られたり、あきれられたりすることも多かったようです。しかし、壮絶な戦争体験の中でもわが道を行き、戦後のきびしい時代もたくましく生きていく姿には勇気をもらえます。できないことがたくさんあっても、周りにどんな目で見られても、自分らしく生きていいんだと肩の力を抜いてくれるような一冊です。



『コーヒーの絵本』

庄野 雄治／著 平澤 まりこ／絵

サンクチュアリ・パブリッシング(2014年)

みなさん、コーヒーは好きですか？この本ではコーヒーの淹れ方を絵と文でわかりやすく紹介しています。でも、豆の種類や配合がきっちりした一杯より、そのときにその人がおいしいと思える一杯があれば、ゆたかな時間を過ごせるとも書いています。ブラックでも、砂糖やミルクを入れても大丈夫。ひとやすみの時間においしいコーヒーがあるのは素敵なことですね。

紅茶派の人は、『紅茶の絵本』も出版されているので、そちらもどうぞ。



『部屋で楽しむ 小さな苔の森』

石河 英作／著 家の光協会(2018年)

テラリウムとは、ガラス容器などで植物や動物を栽培・飼育する技術のことを言います。この本ではコケに注目して、栽培方法や鑑賞方法を紹介しています。コケの種類や植え方のアイデアなどの写真を見ているだけでも充分楽しめますが、読み進めていくうちに、きっと実際に育ててみたくなることでしょう。おしゃれな入れ物の中に自分だけの小さな森を作って、コケの癒しを味わってみませんか。